®は登録商標

使用者の声

「総合殺菌剤 フロンサイド粉剤」の使用感について、インタビュー!
生産者様の声を紹介いたします。

総合殺菌剤
石原 フロンサイド® 粉剤

【キャベツ】群馬県 黒岩さん

嬬恋高原キャベツの ブランドを守るために。 品質維持と安定出荷を支える フロンサイド粉剤という選択。

群馬県嬬恋村で夏秋キャベツを18ha栽培する黒岩さんは、21歳の頃に三代目として農業経営を引き継ぎ、現在は就農18年目になります。4月上旬から8月中旬までキャベツを定植し、収穫期間は6月中旬から11月初旬までの約5か月。忙しい収穫期には8名で作業を行うそうです。「幼い頃から親の仕事を見て育ったので、年間の栽培スケジュールは自然と身についていました。しかし、いざ自分が主体となってやってみると、こんなに苦労があるんだと実感します」と、これまでを振り返ります。

先代からフロンサイド粉剤を愛用。 安定した効果に加え、コスト面でも魅力的。

夏秋キャベツの出荷量日本一を誇る大産地の生産者として、心掛けていることがあるといいます。「一枚の畑から、一つでも多く出荷すること。そして消費者に安心安全なキャベツを届けることです。そのために、病害防除タイミングの判断や、その土壌の状態、またキャベツの成長にあわせた適切な肥培管理には気をつけています」。定植前の根こぶ病防除で愛用しているというフロンサイド粉剤は、先代から使い続けているそうです。「根こぶ病に加え、リゾクトニア菌病害にも効果があるので使っています。就農時から毎年使っていますが、特に問題なく効いているイメージがあります」と、安定した効果を感じているようです。さらに、「他剤に比べたらコストはだいぶ安く抑えられており、とても助かっています。粉剤専用のロータリーソワーで散布しながら土壌混和をしていますが、作業が一回で済むので時間効率が良いです」と教えてくれました。





厄介な根こぶ病は未然の防除が大事。 産地全体でも使用者多数。

「毎年同じ土地に同じ作物をずっと植え続けているので、根こぶ病は連作障害のトップだと思っています。一度発症してしまうと抑えるためにはコストがすごくかかってしまうので、防除は絶対に必要です。毎年、フロンサイド粉剤を使って未然に防ぐよう意識しています」と話す黒岩さん。安定出荷のため、産地全体で根こぶ病防除には気をつけているといい、ご自身が支部長を務めるバラギ高原出荷組合の青年部でも、フロンサイド粉剤の使用率は高いそうです。

黒岩さんの今後の目標は、「全国に誇る嬬恋キャベツの名を守りつつ、出荷量を上げて、安心安全なキャベツを届けること」。そのために、今後もフロンサイド粉剤は欠かせないといいます。「これまで毎年使ってきて失敗していないので、効果に対して安心感があります。コスト面でも優れているので、これからも使い続けたいと思います」。

※取材時(2025年12月)における個人の感想をもとに作成しています。

●使用前にラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。

ISK Local Insight, Global Impact

石原バイオサイエンス株式会社
〒102-0071 東京都千代田区富士見2丁目10番2号

"使用者の声"はwebでもご覧いただけます